

仁科芳雄 にしなよし 物理學者、理學博士。明治二十二年十一月十日岡山縣  
生れ、昭和二十六年一月十日歿（八九〇一五二）。大正七年東京帝國大學  
工科大学電氣工學科卒。十年理科學研究所研究員、歐洲に赴きニール  
ス・ボーアの下の研究。のちサイクロトロン建設、宇宙線觀測を行ひ、  
戰時中は極秘の原爆開發計畫を指導した。昭和二十一年理研究所長、文  
化勸業省章。二十二年理研を株式会社科學研究所に改組して社長とな  
り、パニシリンの製造に成功。また原子核研究連絡委員會を設立し委  
員長となる。

譯著書に、デイテック著『量子力学』(共譯 昭和十一年十一月十五  
日岩波書店)、ラングミュア述『界面化学』(譯 昭和十五年九月一  
十七日岩波書店「科學文獻抄」)、隨筆集『私の隣組』(合著・大政  
翼賛會宣傳部編、昭和十七年十月五日翼賛圖書刊行會)、續稿集『原  
子と私』(補訂版・昭和二十六年九月一日學風書院「學風新書」)等。  
朝永振一郎編『仁科芳雄傳記』(回想) (昭和二十七年八月二十日女  
子木 英彦編『仁科芳雄傳記』(回想) (昭和二十七年八月二十日女  
子木 書房) 刊。